

令和6年度 英語学習実施状況について

金沢市立大野町小学校

①小学6年生 英語学習についてのアンケート(令和7年1月実施)

(%)

		そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	無回答
問1	英語の勉強が好きだ。	40.0	25.0	30.0	5.0	0
問2	英語の勉強は大切だ。	90.0	10.0	0.0	0.0	0
問3	ショートタイムの時間は英語の勉強に 役立っている。	50.0	35.0	10.0	5.0	0
問4	英語の授業の内容が分かる。	55.0	35.0	5.0	5.0	0
問5	先生や友達に英語で質問することができる。	30.0	35.0	30.0	5.0	0.0
問6	先生や友達の英語の質問に英語で答える ことができる。	35.0	30.0	30.0	5.0	0.0
問7	アルファベットの大文字が書ける。	80.0	15.0	0.0	5.0	0.0
問8	アルファベットの小文字が書ける。	75.0	20.0	0.0	5.0	0.0
問9	教科書やピクチャーディクショナリーの単語 や英文を書き写すことができる。	80.0	15.0	0.0	5.0	0.0
問10	教科書の単語や英文を読むことができる。	60.0	30.0	5.0	5.0	0.0

②指導改善の具体策

- ・「先生や友達に英語で質問したり答えたりすることができる」への肯定的な評価をあげるために、授業の中で表現する時間、特にコミュニケーションの時間を大切に扱う。英語での会話に自信がない様子の児童が多く見られることから、ペアワークなどを取り入れ、練習する時間を十分にとるようにする。
- ・既習の表現を使ってコミュニケーションする力を伸ばすために、評価の仕方を工夫したり英語で校内放送するなどして、英語を身近に感じられるような工夫をする。

③学校関係者評価

- ・英語学習のアンケートは7年目に入ったようですが、英語にふれることによって確実に興味が向上してきている。授業の内容がわかること、英文を読むことができることも向上してきている。よいと思います。
- ・時代の流れで先生方の対応も変化して大変だと思います(SNSなど)。何が正解かわからない中で、子どもたちの事を考えてくださっているのが伝わりました。
- ・将来を担う子ども達にとって英語教育は大切である。子ども達も英語を使いこなすことの大切さは十分認識しているようである。日常的に英語の会話ができることが重要であり普段の生活の中で英語がなじめるよう指導してほしい。
- ・文法よりも日常会話や英語の音楽などで聞く力、話す力を身につけてほしい。問5、6などの「そう思う」が少ないのが気になります。
- ・みんな「英語の勉強は大切だ」と思っているのは素晴らしいがその勉強が好きでない割合が高く、気になるところです。英語での質問や質問に英語で答える割合は、半数以上がある程度質問できるが積極的にできる人は3割と少ない。もっと身につくようにペアワークや少人数のグループワークの練習の場を作るなど「伝えようとする意欲」を重視し、自信がつくようになってほしい。英語の時間に限らず学校内で簡単な英語を使う機会があれば少しでも身近に感じてもらえるのでは？と思う。
- ・英語嫌いが35%いて、そのまま中学校に進学することで、さらに英語嫌いに拍車がかかることにならないか懸念される。大半の児童が「読み書きができる」と答えているのは評価できる。一方で話すことに苦手意識をもっている児童が35%いることから、現状の小学校における英語が教科となり、読み書きと会話のどちらを優先しているのか、また小学校は英語科は中学校進学前の導入なのか、など立て付けを知らない保護者もいると思うため、広報してもらえるとありがたい。
- ・毎日日常的に英語を聞いて、まず耳が慣れていくことが大切。くりかえし放送で短い文章やことわざ解説などを流す、英語検定をめざす、ネイティブ英語をめざすなど。
- ・問3～6の評価が低い、問3については先生方が子どもたちと一緒に楽しめるような内容になっているかが解決策につながると思います。また、問4～6については子どもの自己肯定感を育てる指導が意識されているかを検討することが解決に繋がると思います。英語に限らず肯定的にほめることが大切だと思います。
- ・小学生のうちにとんなレベルで英語をつかえるようになるか、学校と家庭で共有できていないのではないか。期待値をそろえるために、客観的な指標が必要。
- ・台湾の小学生が話すレベルと比べるとフェアでないかもしれないが、何がこの違いを生んでいるのかを学校関係者で話してみるのとは今後の課題発見のために大切ではないか。英語に限らず論理を組み立てるような基本の母国語の能力や言葉の違う相手とコミュニケーションをとるための非認知能力がベースとなるのは間違いないと思う。本校の児童はコミュニケーションがしたいという気持ちが強いようで、今回の出会いが異文化理解をしたい、英語がうまくなりたいたいというきっかけになれば良い。